

農業農村工学分野における技術者継続教育（CPD）の現状と課題
Present State and Problem about Continuing Professional Development
of Agriculture and Rural Engineering

技術者継続教育機構評価委員会委員長 駒村正治
Masaharu KOMAMURA

1. はじめに

農業農村整備事業では、設計業務や建設工事の入札の際に「技術者教育認定制度(CPD制度)」に基づく「CPDポイント」を外部評価として導入している。同制度は農業農村整備の多様化、技術領域の拡大、新たな国際化時代を担う技術者の育成に対応するためにも広く活用されている。本報告では農業農村工学分野において継続教育の実態からみた現状と課題および今後の方向について探る。

2. CPD 機構の目的と業務

技術の急速な進歩と経済活動のグローバル化が進む中で、大学教育から社会人教育にわたる一貫した技術者継続教育（CPD：Continuing Professional Development）の制度化が進んでいる。わが国では技術士法の改正により技術士の日常における技術力研鑽が責務となり、日本技術士会により CPD 制度が実施されている。農業農村工学分野においても、平成 14 年 2 月農業土木学会は、「農業土木学技術者継続教育機構」を設立した。

本機構の目的は、農業土木技術者の資質の向上を図り、もって社会に貢献することとし、この目的を達成するため、以下の 4 項目の業務を実施する。

- ①継続教育プログラムの評価・認定
- ②継続教育プログラムの情報提供・支援
- ③継続教育の記録および管理
- ④継続教育の証明

3. 技術者継続教育の現状

(1) 会員数の動向 平成 14 年の機構発足後、今日までの会員数の推移を図 1 に示す。会員数は毎年増加傾向であり、農業農村工学会の会員数を平成 19 年ころから上回り、平成 21 年度末時点で約 14,000 人である。また、認定プログラム実施する主体である CPD 法人会員も同じく増加傾向であり、150 の会員数である。個人会員の所属による内訳をみると民間 6 割程度と多く、国・地方公務員の会員数は全体の 1/4 程度である。このことから、民間会社では、参加に積極的であるが、発注者側である官側の参加がやや少ないといえる。

(2) 取得ポイント 会員の CPD ポイント取得の実態は、図 2 のようであり、年間 1 ポイントも取得していない会員数が減少せず増加傾向にある。図 3 のように CPD ポイント取得平均は、取得者のみの平均で 25～30 ポイントの間を変動している。全会員の平均は、20 ポイント程度と少なく、それも減少傾向であることが大きな課題といえる。なお、認定される継続教育の内容は、次の 6 項目であり、それぞれに CPD 単位が与えられる。

- ①参加学習型：研修、講習、シンポジウム、通信教育などへの参加
- ②情報提供型：論文の発表、著書の執筆、研修会の講師など
- ③実務学習型：特許取得、新工法開発など技術的業務記録など
- ④技術協力型：技術関連委員会委員、国際機関への協力など
- ⑤自己学習型：各種資格試験の受験勉強や、業務上必要な自己学習
- ⑥その他：資格取得、関連組織からの技術業績に対する受賞など

各項目について、それぞれの内容に応じて設定された CPD 単位の算定法に従って単位数で評価される。取得すべき CPD 単位については、日本技術士会は 3 年間で 150 単位を目標としている。本機構でも年間 50 単位取得を勧めているが、図 3 のように目標の半分程度と低いのが実態である。

(3) 認定プログラム CPD 法人会員が実施するプログラム数の動向を図 4 に示す。最近の 4 年間は約 1,400 プログラム数で増減が無く、定常状態に入ったようである。そのうち非認定となったプログラムは減少傾向であり、認定率は年々増加し、近年では 99% の高い水準を維持している。これはプログラム側の準備手法が確立しつつあるといえる。また、この背景には技術者継続教育機構評価委員会・事務局の地道な努力の存在がある。

4. 課題と今後の方向

基本的な問題点の一つとして、会員の記録ノート提出率を取り上げる。記録ノートは取得ポイントの申請上から重要な事項であるが、その提出率が 40% と非常に低い。この 4 年間は増加傾向ではあるが、まだ低い。今後は技術者資格の有無に加え、CPD ポイントに応じた受注者の技術力評価が始まっている。さらに、世間からの厳しい視線、意見などを十分理解し、発注者側の技術者集団の技術力の高さを示すことが重要である。農業農村整備に携わる技術者にとって発注者および受注者責任を明確に果たして行く必要がある。

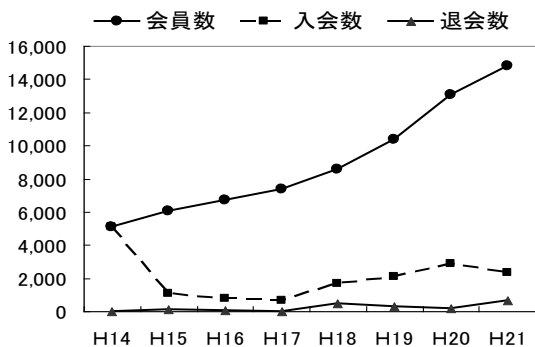


図 1 個人会員数の推移

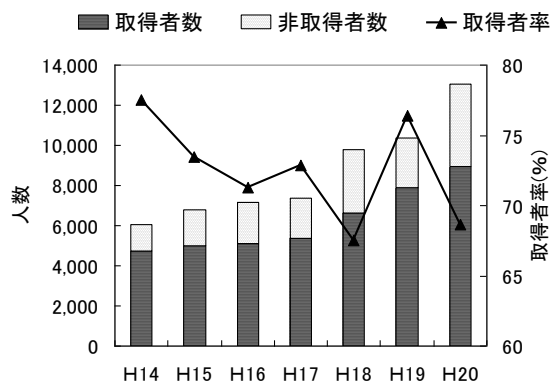


図 2 CPD 取得者数と非取得者数

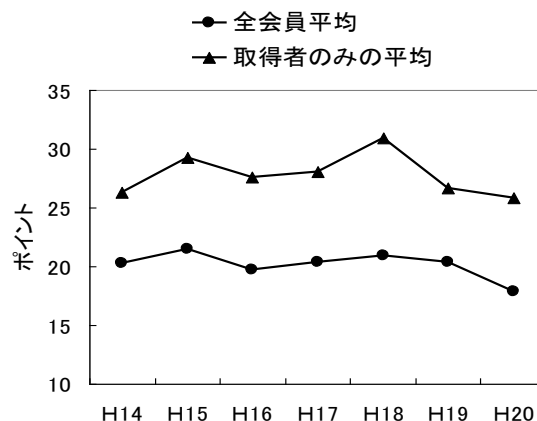


図 3 CPD ポイントの取得平均

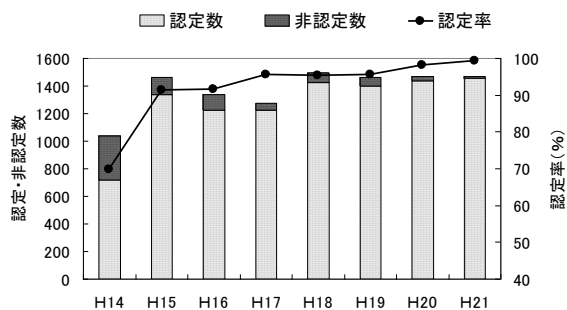


図 4 プログラムの認定・非認定

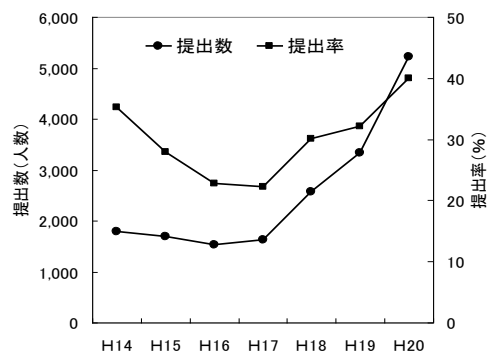


図 5 記録ノートの提出状況